

秋葉区 新関コミュニティ協議会

活動名：災害に強い福祉コミュニティづくりの推進

(「避難所運営マニュアル作り」と学校・地域と連携した防災訓練)

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

これまで自主防災訓練を繰り返す中で、新関小学校が避難所となった場合、避難所の運営が円滑に行われるためのマニュアルが必要と考えた。マニュアルを使い、災害時に小学校児童の安全な登下校について訓練を通じて検証する必要性を強く感じた。そのためにはコミ協、自治会、学校が連携した訓練が必要となった。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

災害(今回は授業日に震度4強の地震を想定)が発生した場合、児童を安全に下校させるための訓練と位置付けた。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

自主防災担当者会議を開催し、訓練の趣旨や目的、役割分担等を綿密に検討した。訓練当日は、「避難所運営マニュアル」に基づき災害対策本部を新関コミセンに設置。小学校や各自治会への連絡や情報収集を行い、小学校グラウンドに児童に児童や関係者全員が集結。自治会ごとに役員や子供が自己紹介し顔と名前を覚え、訓練の目的や心構えなどを理解しあった。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新関小学校・PTA・おひさま保育園・民生委員・地域ボランティア・消防団



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・これまで、地域住民を目的とした訓練であったが、今回、小学校や児童の安全を守るという視点で行ったことで、参加者からも大きな評価を得た。他のコミ協等の反響も大きかった。
- ・小学校からは、訓練の趣旨、目的について積極的に賛同して頂き、格段のご協力をいただいた。今後も連携強化を推進したい。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・小学校との連携ということで、日程や時間調整等に苦慮した。土曜、日曜は困難であり、授業日であっても限られた時間内（45分授業のため）での内容検討をしなければならなかった。
- ・借り物でない地域の実態に即した「避難所運営マニュアル」作成ということを最優先した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・小学校と連携した防災のあり方をさらに検討し、児童の安全確保に努めたい。
- ・新開地域の「防災の日」を設定し、より防災意識を高める訓練を継続していきたい。



秋葉区 山の手コミュニティ協議会

活動名：避難所設営訓練

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

最近、予測できない未曾有の災害が続発している中、当コミ協に加入している自治会内でも災害に対して、まだ意識が弱く、身近な問題としての考えが希薄になっています。また、自治会長が任期で1年という輪番制を取っている地域も少ないため、防災に関する意識と協力体制の弱小が懸念されます。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

災害発生直後の混乱期による地域住民の安否確認と、避難所の速やかな開設と円滑な運営ができるように、実践的な防災訓練を行うとともに、防災に関する意識と防災体制の強化を図ります。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ・各戸の安全確保、火の始末実施
- ・各自治会の安否確認方法

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

秋葉区役所、新潟市水道局、秋葉区社会福祉協議会、新潟市消防団秋葉方面隊小須戸第3分団、特別養護老人ホーム蒼丘の里、(株)ふれあいの杜、小須戸中学校



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

防災意識について各自治会での考えのばらつきがある中、事業を通して地域の一体化や各自治会同士の連帯感が醸成され、協力体制が図られました。特に自治会は事業を通じ、災害が発生した時の避難による集合場所を決めたり、安否確認方法を議論したり、自治会の自発的な地域活動の気運が高まり、「山の手はひとつ、17自治会はとなり組」という絆が一層構築され、事業目的である災害発生直後の混乱期による地域住民の安否確認と避難所の速やかな開設と、円滑な運営のイメージを体験することができました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

予想しうる問題点解決に向け、度重なる打ち合わせ会議をすることによって、防災意識の高揚を図ることができました。事前に、秋葉区・秋葉区社会福祉協議会など各機関と協力要請を行い、それに伴い地元消防団と連携した取り組みを図りました。また、相互援助協定を結んでいる特別養護老人ホーム蒼丘の里、(株)ふれあいの杜と連携した取り組みを図りました。中学生ボランティアの役割について考え、食事づくりや運搬作業、要援護者の搬送に協力してもらい、助けてもらう側から助ける側へと、中学生ボランティアが災害時に大事な力となることが検証できました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

自治会によっては自治会員の防災意識にムラがあり、また自治会長が任期1年で輪番制を取っている地域も少なくないため、今後も防災に対する協力体制や気運が薄れさせないためにも、防災訓練とは別に秋の消防演習日に合わせて、各自治会の自主防災会の研修を行うなど、コミ協防災部としてより一層の防災意識の向上に努めていきたいです。



秋葉区 荻川コミュニティ振興協議会

活動名：荻川地区敬老会

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

荻川地区 18 町内で、銘々の敬老祝賀行事を行ってきましたが、町内の規模により盛大に挙行できる町内、簡素な町内、場合によっては出来ない町内と環境及び規模により、区々であった祝賀行事をコミ協で一本化実施をすることで、平等化かつ盛大な事業として実施できます。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

コミ協での一本化での実施で、平等でかつ、ある面盛大に実施は出来るが、経費面から行政サイドの補助金等を利用しながらも各町内との合同実施とし、費用の負担、支援スタッフ等の人的支援体制の確保を行いました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

各町内会長と十分な話し合いを行う中で同意、或いは妥協へと結びつけてきました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

地区自治会・町内会

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・各町内単位を超えた連帯感、一体感の醸成が出来ました。
- ・一堂に会し実施をすることで、各町内毎の手数、費用の軽減となりました。
- ・敬老会式典では、余興メニューが豊富となりある面盛大な式典となり、招待長寿者からは、喜んで頂いています。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

遠くの町内からに式典出席者の運搬方法で、町内によっては役員がマイカーでの送迎、自営マイクロバスの借り上げ等で、対応してきましたが、H21 年頃から営業用マイクロバス 3 台でのピストン輸送で対応しています。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

対象長寿者の増加で、式典の会場確保、経費面での増が懸念されるが、なんとか知恵を絞ってこのまま継続をしていきたいです。



秋葉区 山の手コミュニティ協議会

活動名：緊急情報キット配布事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

近年、高齢者世帯や夫婦世帯、また昼間独居状態の世帯が増加傾向にある中、緊急時や災害の「もしも……」の時に備える必要があると考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

急病時等の救急搬送時や救急医療機関での治療等に迅速かつ適切な医療情報の提供により、1分1秒を争う緊急事態に備えるため、当初は一人暮らしの70歳以上の高齢者への緊急情報キットの配布を予定していました。しかし、年齢に関係なく、全世帯に配布してほしいとの自治会からの強い要望があり、安全で安心な住みよいまちづくりを目指す取り組みの一環として、山の手地区全世帯へ配布することにしました。

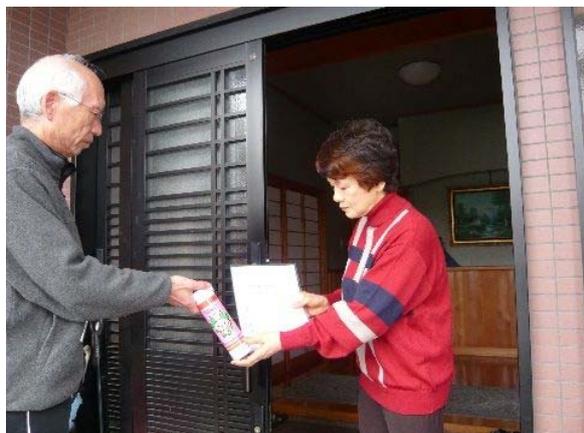
Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

チラシを配布し、地域住民への周知を図り、自治会長を通じて地域住民に緊急情報キットを配布しました。緊急情報キット内に格納されている情報用紙に「かかりつけ医」「持病」等の医療情報及び「診察券の写し」「健康保険証の写し」等の情報を記入し、その他情報提供に必要な書類（本人確認できる写真、健康保険証・診察券の写し、持病内容、薬剤情報など）を情報キットに納め、自宅の冷蔵庫に保管されていることを消防救急隊に知らせるために、玄関の戸やドアの内側と冷蔵庫の扉にステッカーを貼ってもらいました。

緊急情報キット内の情報用紙等の記入内容を再度見直し、確認するために、毎年3月11日を「絆の日」と設定し、更新日としています。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

秋葉区役所、秋葉区社会福祉協議会、新潟市秋葉消防署



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

山の手地区全世帯に配布することによって、家族の健康に対する意識の高揚を図ることができました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

作成にあたって、新潟市秋葉消防署と事前に協力要請を行い、それに伴い秋葉区社会福祉協議会と連携した取り組みを図りました。自治会長協力の下、世帯へ手渡ししてもらうことで、内容を的確に伝達することができました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

毎年3月11日を「絆の日」と設定し、更新日にすることによって、「配布物」に終わることなく、継続的な活動につなげ、いざという時に助け合える地域づくりに最大限生かしていきたいです。



秋葉区 新津東部コミュニティ協議会

活動名：夏休みわくわく講座

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

- ・子どもたちが安心して遊び、学べる機会を確保したい。
- ・少子化、核家族化によって、親同士の交流が少なくなっている。
- ・地区(コミ協)、学校行事・活動に対する関心が希薄となっている。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ・子どもたち、保護者、地域の方々、学校等で一緒になって、行動・体験ができること。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ・科学実験、遊び、折り紙、おはなし会等6部門の講座を開設しました。
- ・参加者 359 名(6講座延べ人数)

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

食生活改善推進委員、民生委員、地域のリーダー、NPO 法人

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・子どもたちは低・高学年の隔たりなく、交流が行われました。
- ・我が子だけでなく、広く地域の子どもたち、親同士の絆づくりの機会となりました。
- ・地域、学校活動に対し、連帯感が醸成されました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・夏休み中の事業であるため、日程、講師設定の調整が大変でした。
- ・地域の方々の協力が得られ、順調に終了できました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・講座の内容に工夫が必要です。



秋葉区 金津コミュニティ振興協議会

活動名：ごみの不法投棄撲滅運動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

ごみの有料化に伴い、人気のない山や雑草地にテレビや古タイヤ等の不法投棄が目立つようになりました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

不法投棄のしやすい場所の点検。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

不法投棄箇所の巡回並びに不法投棄看板の設置。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

住みよい郷土推進協議会秋葉区支部、秋葉区役所区民生活課生活環境係

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

その後、不法投棄を見かけないです。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

不法投棄物の撤去。（行政に依頼しました。）

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

見落としの箇所を点検し、不法投棄防止の看板等を設置します。



秋葉区 山の手コミュニティ協議会

活動名：地域と学校合同環境美化活動事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

「花と緑の小須戸地域」といわれた地域住民の玄関口「矢代田駅」が新しく改築したことをきっかけに、地域住民から愛着を持ってもらい、さらに活性化する必要があると考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

地域住民と生徒との奉仕活動を通じて、環境美化に対する意識向上と世代間の交流や、地域への愛着を育んでいきたいです。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

地域住民とともに、中学1・2年生の混合の班24班に分かれ、不法に捨てられた通学路のゴミ、缶、ペットボトル等を回収し、その後矢代田駅東西口にて広場の草取り及びプランター200個に1,000ポットの花植え、県道安田線沿いの花壇20箇所に1,500ポットの花植えを行いました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

小須戸中学校、地元園芸会社

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

生徒と地域住民が協力して環境美化活動に取り組んだことにより、世代間の交流が深まりました。地域への愛着心が醸成するとともに、奉仕活動を通じて環境美化に対する意識向上が図られました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

事前に環境部花の会が学校へ出向き、1・2年生混合の班のリーダーに花の植え方等を指導し、その後リーダーが班のメンバーに伝達し、練習したことで、当日の作業がスムーズに進んだとともに、班のコミュニケーションが図られました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

事業を通して、学校と地域の絆を深める活動を展開していきたいです。



秋葉区 新津中央コミュニティ協議会

活動名：にいつの史跡を訪ね歩こう～安吾の故郷を訪ねて～

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

新津は長い歴史の上に築き上げられた街であり、見るべき史跡等も多いです。しかし、それらが市民の多くに知られているとは限りません。これらに触れる機会をつくり、多くの人がこれらに関心を持ってもらい、地域の歴史について知識を深めることが重要です。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

実施する回毎にテーマ・場所を決め、そこを巡ることにより、参加者における新津の歴史に関する知識を豊かにし、新津の歴史についての関心をより一層高めることです。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

今回は「安吾の故郷」をテーマとし、東金沢町、大安寺地域にある主として坂口安吾関連の史跡を巡るルートを設定しました。参加者を募り、コミ協関係者の中で地域の歴史に詳しい人とともに史跡等を歩いて巡り、それぞれにおいて解説を行いました。

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

参加者における新津の歴史についての知識を増やすことができました。加えてこのことを通じて、より多くの人々が新津の歴史について関心を強めたものと思われます。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

過去2～3年に実施したものと内容が重ならないようにルート等を検討しました。また半日の日程であり、参加者において歩いて巡るだけの体力及び適切な歩き方が身に付いていることが重要です。このため別途「心地よいウォーキングを学ぼう」を実施し、正しい歩き方等を指導しました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

次年度以降も秋葉区内の史跡等について、順次新たなテーマ・ルートを設定して実施していきたいです。



秋葉区 新関コミュニティ協議会

活動名：新関地域に笑顔と元気と夢を届けるために その2 新関地域の探索マップづくり

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

少子高齢化が進み、また、中学校も統廃合となり地域全体に活気が乏しくなっていた。
新関コミュニティ協議会発足以来、地域の活性化のための施策を検討してきたが、その過程で、新関地域の歌（ご当地ソング）作りとともに、地域を知り過去から現在、未来につなげることを目的とした新関地域の探索マップづくり（しんせき夢マップ）を考えた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ・ 専門家に頼らない手作りの地域マップにしたいということを基本に据えた。知っているようで知らない地域の歴史や文化、風俗習慣、食文化や教育などを掘り起し、地域理解に役立つようなもの、さらには将来への夢につながるようなマップにしたいと考えた。
- ・ 一層の地域愛を育てる。
- ・ 新関小学校児童の副教材として活用でき体験学習などにも役立つようなものにする。
- ・ 他地域の人から新関を知ってもらい足を運んでもらえるものにしたい。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ・ マップづくり委員会を結成し、何回も各地域に足を運び資料収集に当たった。
- ・ 自治会関係者や新関地域をよく知る有識者など大先輩から話を聞く機会を作った。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新津地区公民館・新関小学校・新関小学校PTA・おひさま保育園



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

地域住民ら多くの人から賛同を得、資料提供など多大な支援と協力をいただいた。これにより、みんなで作った手作りのマップとなった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

ふるさとソングづくり同様、「すべて手作りで」を合言葉にして臨んだため、資料収集、編集、校正等多くの時間を割き、完成までの道のりは長く厳しかった。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・地域住民や他地域の人に呼びかけ、マップを使っての地域探索めぐりを計画する。
- ・マップ作製で得た様々な資料を整理し、補助資料として残す。
- ・マップに折り込んだ内容等を中心に「ふるさと講演会」などを実施する。
- ・小学校児童がマップを活用するにあたっては、側面的に支援を行う。
- ・地域のガイド役的な人材の育成も必要である。



秋葉区 小須戸小学校区コミュニティ協議会

活動名：空き店舗町屋を活用した地域交流拠点「町屋ギャラリー薩摩屋」の公開・運営

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域の中心地区である小須戸本町通り周辺の商店街において賑わいの喪失、空き家の増加が目立ちつつあり、また地域に高齢者が増えていることから、特に買い物時の休憩所や住民交流の場が求められていました。また、以前から住民団体が進めていた町屋散策等の地域活動が活発化する中で、地域の情報発信や活動拠点の場が不足していました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

商店街での買い物時の休憩スペース、町屋散策時の交流スペースとして、空き店舗となった町屋の活用を目指しました。常時企画展示等のイベント等を行うことで、地域の情報発信の場として、地域内外の人から小須戸地区に関心を持ってもらうことを目指しました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

土・日・祝日を中心に空き店舗町屋「薩摩屋」を開館する体制を整え、地域の歴史や文化を掘り下げる企画展示や区内の文化施設と連携した展示やイベント、新潟市「水と土の芸術祭 2012」の作品展示・会場運営・情報発信への協力等を行いました。

また、小・中学校の地域学習への協力も進めました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

・小須戸小学校、小須戸中学校



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

「薩摩屋」で企画展示やイベント等を行うことで、1年間に延べ約4,000人の来館・利用がありました。地域住民はもちろん、地域外からも多くの来訪があり、多くの方々から小須戸の「町屋」や「町並み」、伝統産業である「小須戸縞」等をきっかけに、地域に関心を持ってもらうことができました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

「薩摩屋」開館に向けた活動は2009年より進めてきたが、費用がネックとなり定期的な開館に至りませんでした。2012年度から市の補助を受け、定期的な開館の体制を整えることができました。開館に際してコミ協内に委員会を設け、コミ協関係者に加え商店街や商工会の代表に参加してもらうことで、地域全体の取り組みとして活動の幅が広がるよう工夫しました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

「薩摩屋」の公開・運営には予算の制約もあり、開館日時や設備面での課題があります。開館日時は現在土・日・祝日のみとなっているが、将来的には平日も含めた常時開館を目指したいです。また設備面についても、特に冷暖房・給湯設備等の整備を進めて利便性を高め、住民団体などによる利用・活用を一層促していきたいです。



秋葉区 新津西部コミュニティ推進協議会

活動名：雪の火祭り

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

近年、地域内の子どもたちと大人が一緒に行う行事が少なかったため、世代間交流的な行事を行いたいと考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

自治会数・世帯数が多かったため、より多くの方から集まっていたりするような、行事を考え実行することです。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

昔から山谷2・3丁目地域で行われていた「賽ノ神」行事を柱に、地域内の農家の皆さまからの協力を得ながら、子どもたち・保護者・地域の方たちが共同で行える作業を分担し、必要な材料となる藁集め・火の塔製作から後片付けまでを行いました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新津第三小学校、13自治会、PTA、農家、山谷保存会ほか

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

10月頃行う「藁集め」から3月の「後片付け」まで、約半年にわたる行事となるため、さまざまな作業日等で世代間交流が生まれ、歴史ある行事を子どもたちにも直に経験させることができました。「火の塔」点火日は、天候にも大きく作用されるため、参加者の心配はあるが、回数を重ねることで年々参加者数も増えました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

大変な作業となる「藁集め」は人数集めに苦労しました。また「火の塔」製作は、悪天候のなか危険な高所作業も多いため、安全第一を心掛け、点火日は天候に作用されるため、参加者数の心配はあるが、回数を重ねることで年々参加者数も増えました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

「継続は力なり」と心がけ、昔から行われている行事として、今の子どもたちが大人になっても続けられていることが重要と考えます。この行事を続けることで更なる「世代間交流」を進めていきたいです。



秋葉区 荻川コミュニティ振興協議会

活動名：荻川あいさつ運動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

この地区が新潟のベッドタウンとして、世帯・人口の増加による都市化現象で、ややもすると人間関係が疎遠になり、うるおいのない地域となる恐れがありました。

荻川を一つの隣組のような人間関係が保たれた環境とするため、あいさつを交わし合う荻川を目指し「あいさつ運動」を展開しています。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

地域住民・諸団体等の機関が一体となって取り組む体制が必要のため、自治会・町内会長会、諸団体等連絡会を主体とする「荻川あいさつ運動推進会議」を組織し、活動を展開しました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

「荻川あいさつ運動推進要綱」を作成し、あらゆる手段を使って趣旨の徹底を図ること、不断の努力により根気強く運動の展開を行っています。

特に小中学校の児童・生徒に参加いただく事が成果に大きく貢献することにつながるため毎月10日登校時間帯にあわせ、通学道路でPTA、町内、老友会等で声かけ運動を展開しています。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

自治会・町内会長、小中学校のPTA、老人会

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

小中学校の児童・生徒の挨拶はよくなっています。他所から荻川に来られた人、先生が口々に「荻川の児童・生徒は、あいさつが出来ていることに驚きます」と言われます。

登校時間帯の「あいさつ運動」は交通安全指導も兼ねることから、「交通安全にも一役」の貢献が来ています。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

この運動が地区全体のものになり、認知度を高めるために、10日の行動日には広報車を出動させ、地区内へのPR活動を展開しています。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

「あいさつ」を子供、大人全体に関わらず、交わし合う荻川にしていきたいです。

そのため「あいさつの基本は家庭から」と思われますので、広報活動等を強化し、家庭、大人へのPR活動を充実させていきたいです。



秋葉区 満日コミュニティ協議会

活動名：満日地区世代間交流事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

年々高齢化率が進捗する現状と少子化傾向を踏まえ、地域の連帯感の希薄など高齢者と若年層の対話が少なくなっています。

特に地域の子どもは、地域で育てる習慣が薄れてきている等、地域住民の各世代が一体となった作業など融和を図る活動の機会が減少傾向となっています。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

地域の人たちが活動をとおして、交流ができる機会や場の提供並びに、環境美化問題などにも関心を持って行える活動が大切であると考えられます。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

各世帯の家族が参加し、阿賀野川の河川敷において、春に地域の環境美化活動として、花の苗植えを行うとともに、サツマイモの苗も植え、秋のサツマイモ収穫のための植栽等を行った。

秋には、「収穫祭」を行いサツマイモの収穫を喜び、焼き芋やバーベキューなどを一緒に作り、交流を図りました。

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・地域の環境美化活動及び、サツマイモの収穫祭で、参加者がこの事業をとおし、少しでも地域の状況を理解し、また、子供から年寄りまで、世代間の交流活動を実施したことで、地域の一体感が醸成されました。
- ・収穫祭では、多くの参加者があり、更なる交流を図ることができました。
- ・また、サツマイモ作りなどとおし、畑作りから収穫までのことなどについて、高齢者の知識や経験を学ぶ機会にもなったと思います。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

花植え等の場所については、河川敷を利用しているため、河川の増水時は、花壇・畑等に影響がでることがあります。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

今後、少子化が進む現状では、事業の先細りの感が想定されますが、今後も継続した活動を行なうため、事業内容等の検討に努めるとともに、地域交流を大切にしたいと考えています。



秋葉区 阿賀浦コミュニティ協議会

活動名：地域交流事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

コミュニティ協議会ができてまだ年が浅く、すべてのスポーツ、祭りごとは各町内で行っていたことを、5町内の絆を深めるために始めました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

多くの人に参加してもらうため、各町内の各団体の方より知恵を出し合い、皆さんが楽しめるよう目標を設定しました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

活動ごとに阿賀浦コミ協だより、掲示板の利用、回覧等でPRし、多くの人たちに注目していただきました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

PTAを含む全団体

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

今までは5町内が各町内で行っていた全てのことが一つになり、大きな町内ができ、皆さんの顔が近くなり、親近感が生まれます。何事にしても他の町内の良いところを取り入れるようになりました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

活動を始めるときは助成金を活用し、うまくいったが助成金がなくなって心配です。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

毎年行っている行事を継続することが一番大切



秋葉区 新関コミュニティ協議会

活動名：新関地域に笑顔と元気と夢を届けるために その1
新関地域の歌づくり

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

少子高齢化が進み、また、中学校も統廃合となり地域全体に活気が乏しくなっていた。
新関コミュニティ協議会発足以来、地域の活性化のための施策を検討してきたが、その過程で、新関地域の歌（ご当地ソング）を作ってみんなで歌ったり踊ったりし元気を出したいと考えた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

専門家に頼らない手作りの歌にしたいということを基本に、地域住民はもとより他地域で生活されている方や、市内の方にも親しんでもらう歌にしたい。そのためにも新関地域の自然や情景が浮かぶ歌にしたいと考えた。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

・歌づくり委員会の結成、歌詞の募集、作曲者・歌手・踊りの振り付け者の選考などを行った。
・歌の完成後は、多くの人に知ってもらい普及させるために歌や踊りの練習会を実施。その上で各種イベントを実施した。

ご当地ソング「ふるさと新関」完成発表会（参加者250人）・小学校の運動会・敬老会・地域のお茶の間・新関ふれあい祭り・各自治会行事での歌の活用を図った。

また、区内各地のイベントに積極的に参加しアピールしている。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新関小学校・新関小学校PTA・おひさま保育園



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・「ふるさと新関」完成発表会では内外から多くの来賓らが参加されたことにより、新関地域の様子やパワーを知ってもらう機会となった。
- ・小学校の運動会では、児童やPTA、地域住民らで踊りの輪を作った。また、各種イベント等で、歌や踊りを披露することにより地域に活気が戻ってきた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・経費等の関係により「すべて手作りで」を合言葉にして臨んだため、完成までの道のりは厳しかった。
- ・イベント等に臨むに当たり、踊りの練習時間が限られており不安であった。
- ・小学校やPTAの理解、レクダンス愛好者やボランティアさんの積極的な協力と行動によるところが大きかった。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・一過性的なものにならないよう、一層のPRに努める必要がある。
- ・新関の同級会や同窓会の会合でも積極的に活用してもらい、県外で生活している人にも「ふるさと新関」を思い出してもらえるようにしたい。



秋葉区 小合地域コミュニティ協議会

活動名：小合愛さつ運動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

従来、あいさつ運動は学校、PTAが中心となり実施してきたが、今ひとつ盛り上がり欠ける面もあり、限定的な取り組みとなっていました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

学校、PTAの他、コミュニティ協議会、老人クラブ、交通安全協会、青少年育成会 駐在所が一体となり、小合地区全体の取り組みとして運動を展開しました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

年2回の重点実施期間（春・秋の交通安全運動期間）を定め、参加団体が通学・通園時間帯、街頭に出て、要所要所で愛さつ運動を実施しました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

老人クラブ、交通安全協会、青少年健全育成会、駐在所

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

小合地区住民が一体となって、愛さつ運動を展開することで、人と人との絆が深められ、明るく活気に満ちた地域づくりに貢献することができました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

小合地区14町内会・自治会の他、老人クラブ、交通安全協会、青少年健全育成会、駐在所が参加しての愛さつ運動であるため、街頭指導箇所をどこにするか、要員の適正配置をどうしたらよいか等が難しかったです。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

平成23・24年度は、春と秋の交通安全運動期間中のみの街頭指導でしたが、今後はこの期間のほか、重点期間を月初めの「1日」とか、曜日設定等を考慮していきたいです。



秋葉区 山の手コミュニティ協議会

活動名：山の手地区ふれあい夏まつり

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

新興住宅の増加により、地域住民のつながりが希薄になりつつある傾向にあり、防犯・防災に関する協力体制が弱い状況にあるため、地域住民同士のコミュニティ形成や、地域の絆を深めることが必要です。また、若い世代の地域活動に参加することが少ないです。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

情報の共有と日常化を目標に、今後いつ起こるかもわからない災害時に備えて、避難所となる小須戸地区ふれあい会館を会場に、世代間の交流を推進することで地域の一体感が醸成され、防犯・防災の協力体制の強化と地域住民のコミュニケーションの向上により、子どもたちの健全育成を図りたいです。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

避難所となる小須戸地区ふれあい会館を会場に、ふれあい夏まつりを開催しました。踊り広場では高校生有志のバンド演奏に始まり、園児有志によるダンス、小学生有志による劇、フラダンスや歌、踊りなどが披露されました。また、小学校でも指導している「小須戸甚句」のコンテストを開催し、伝統芸能伝承を広く知ってもらうことができました。

お祭り広場では、飲食ブースの他バルーンアートや金魚すくいなどの出店や、健康チェックなどが行われ、長い行列ができていました。交通弱者の方など広く多くの方から来場していただく為に巡回バスを運行しました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

秋葉区社会福祉協議会、小須戸中学校、矢代田小学校、小須戸幼稚園、矢代田保育園



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

会場設営や運営に取り組む自治会の連携・協力により、自治会の枠を超えたつながりの強化と地域の親睦を深めることができました。幅広い世代からの参加を通して住民のふれあいの時間、空間を持つことにより連帯感が芽生え、地域の絆を深めることができました。また、教育機関の参加を通して、人づくり、地域づくり、学校づくりの強化を図ることができました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

昨年以上の来場者を見越した飲食ブースを増加することにより、お祭り広場の活性化と内容の一層の充実が図られました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

全自治会が一致団結してまつりをつくりあげることによって、地域の連携と絆を深め、また、まつりが更なる「ふれあいの場」「世代交流の場」になることを期待し、引き続きイベントで終わることなく、創意工夫した取り組みを通じ、避難所となる「ふれあい会館」を拠点にまちづくりを展開していきたいです。

